



## 令和5年の六小は「共」

校長 田邊 雅也

### 今年の漢字は「税」

この時期は、あちこちで「今年の漢字」が話題になります。京都市に本部がある日本漢字能力検定協会において、11月1日から12月6日までの14万7878票の応募の中から、最も多い5976票を集めたのは、「税」の文字でした。「税」は、国民、県民、市民の健康で豊かな生活を実現するために必要な財源です。円安・物価高などもあり、多くの方が日頃の生活に直結する「税」に対する意識が非常に強かったのでしょうか。今年も、生活に根付いた現実的な漢字が選ばれました。来年は、どんな漢字が選ばれるのでしょうか。

### 令和5年の六小は「共」

毎年、この時期に、六小の学校経営の視点で、「今年の漢字」を考えています。iPadが初めて導入された令和3年度は、コロナ禍でも保護者・地域に愛された子供たちをイメージし、「愛（い・アイ）」の文字を選びました。令和4年度は、iPadは当たり前前の文房具となり、子供たちの学びがより本物（オーセンティック）になるよう、試行錯誤を始めたので、「試」を選びました。教育が大きく転換したことを感じた2年間でした。

令和5年の漢字は「共」を選びました。今年の学校だよりで最も使った漢字です。「地域と共にある学校」として「共育・共創」を目指す教育活動を繰り返すことができたからです。

### 実践的で自分ごとと捉えた本気の学びに

「共」は、「共有」、「共感」、「共鳴」など、「一緒に」、「ともに」、という意味があります。今年も、保護者・地域の教育資源を、教育活動の中に取り入れる機会がたくさんありました。子供たちと、オーセンティック（本物）で、ウェルビーイング（だれかのため、なにかのため）につながる活動を、一緒になって試行錯誤することができました。これらは、「共育・共創」する教育活動だったと言えます。子供たちの学びは、教科書やドリルの学びだけでなく、時には、教室の外やオンラインで、実践的で自分ごとと捉えた本気の学びとなっていった、という手応えを感じています。これも保護者・地域の皆様のおかげです。

### マルエツ朝霞店さんでの書きぞめ展

5年生は、総合的な学習の時間で、朝霞市の特産品であるにんじんについて探究しています。マルエツ朝霞店さんは、朝霞産のにんじんについて、子供が書いた新聞やリーフレットを掲載してくださったり、店内放送で子供が宣伝をさせてもらったりと、学びの成果を発表する場を提供してくださいました。また、2年生の町たんけんでも同様に、店舗の見学をさせてもらった子どもも多く、本校とマルエツ朝霞店さんとの関わりが深くなっています。

さらに、令和6年の最初の取組として、本校の学校運営協議会のご尽力もあり、5年生だけではありますが、書きぞめ展をマルエツ朝霞店さんで開催する試みをします。平日の夕方、本校にお越しにならずとも、休日に買い物に合わせて、ご家族でゆっくり鑑賞できると思います。

### 「春まつ心」から「春ひらく心」へ

書きぞめを地域に公開することで、5年生にとって、相手意識や目的意識がはっきりし、書きぞめに本気で打ち込めるのではないかと期待をしています。筆使いには、技術差や経験差などがありますが、作品の出来映えだけでなく、真剣に取り組んだ様子が伝わるのが大切だと思っています。題字の「春まつ心」が、未来を切り拓く意味でも、「春ひらく心」として、育まれていけるよう願っています。

令和5年は、「共」という漢字を選ばせていただきました。令和6年も、保護者・地域と共に、「社会総がかりの教育」を目指した試行錯誤は続いていくと思いますが、今後とも、よろしくおねがいします。皆様、良いお年をお迎えください。